

A comparative study of laparoscopy-assisted pull-through and open pull-through for Hirschsprung's disease with special reference to postoperative fecal continence

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2010-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, なほ メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001007

順天堂大学 博士 (医学)
氏名 藤原 なほ

論文題目 A comparative study of laparoscopy-assisted pull-through and open pull-through for Hirschsprung's disease with special reference to postoperative fecal continence.

(ヒルシュスプルング病術後中期予後：
腹腔鏡補助下および開腹結腸プルスルー法の比較検討)

論文内容の要旨

【目的】ヒルシュスプルング病に対する腹腔鏡補助下手術の術後中期・長期の排便機能に関する報告は少ない。今回我々は腹腔鏡補助下結腸プルスルー (LPT: laparoscopy-assisted pull-through) 例と従来の開腹結腸プルスルー (OPT: open pull-through) 例の術後侵襲および中期・長期排便機能を初めて前方視的に比較検討した。

【方法】当科 OPT 13 例 (1991-1996)、LPT 22 例 (1997-2002) を対象とした。排便機能評価として、排便回数、便失禁の程度、肛囲びらんの有無、粘膜脱の有無、薬剤コントロールの 5 項目に対して、各々 0 から 2 点のスコアリングを用いた (最高 10 点)。便失禁の程度は、無し = 2 点、時々あり = 1.5 点、あり = 1、常に汚染 = 0.5 点、有形便失禁 = 0 点とし、0~1 点を severe incontinence (SIC) とした。周術期における手術侵襲評価には、有熱期間、白血球数最高値、血清 CRP 最高値を用いた。

【結果】術後 7 年間の平均排便機能スコアを各年で比較すると、有意差はないものの LPT 群 : (6.3-9.0) ; OPT 群 : (5.6-8.4) と LPT 群で常に高値を示した。SIC は、術後 4 年では LPT 群 (5/22; 23%) が OPT 群 (7/13; 54%) に比し低頻度で、術後 6 年では OPT 群が (3/13; 23%) であったのに対し、LPT 群では SIC を認めなかった。術後血清 CRP 最高値 (LPT 3.87 ± 2.10 mg/dl, OPT 9.17 ± 4.99 mg/dl) 及び有熱期間 (LPT 0.9 ± 0.8 days, OPT 3.9 ± 2.3 days) は LPT 群でともに有意に低値を示した ($P < .01$)。

【結語】LPT は低侵襲であると同時に、OPT と同等以上の術後排便機能が得られることが示唆された。